

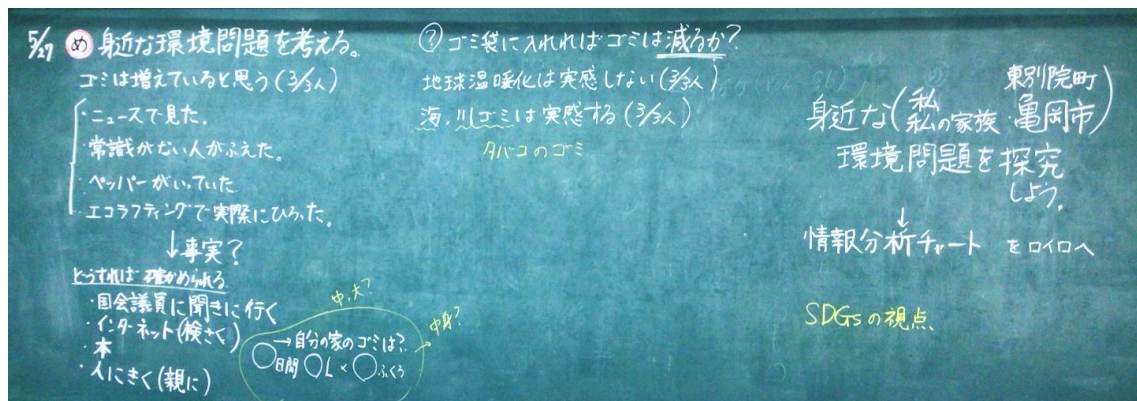
2025年度 活動の概要

●4月 SDGsと出会う

校舎内にあったSDGsを表すボードを元に、SDGsとは何なのか、SDGsラジオや複数の書籍を元に理解を深めた。この時点では、SDGsそのものは聞いたことがある程度で関心のある児童はほとんど居なかった。しかし、学習を進める中で、身近な生活や地域の課題とも関わりがあることに気付き、少しずつ興味や疑問をもつ児童が見られるようになった。



●5月 課題設定と計画を立てる



身近な環境問題としてゴミ問題が話題に上がった。ニュースやインターネットなどを通して問題を見聞きしたことのある児童もいる一方で、詳しい内容までは理解していない児童も多く見られた。そこで、昨年度まで校内のホールに配置していた環境学習ロボット Pepper くんとの対話や、4年生のときに実施したエコラフティングで学んだことを想起しながら、ゴミ問題が自分たちの生活や地域とどのように関わっているのかを整理した。その後、課題を明確にするとともに、どのような方法で情報を集め、誰に話を聞き、何を調べていけばよいのかについて話し合い、今後の探究活動の計画を立てた。

●6月 野外学習と海の生物

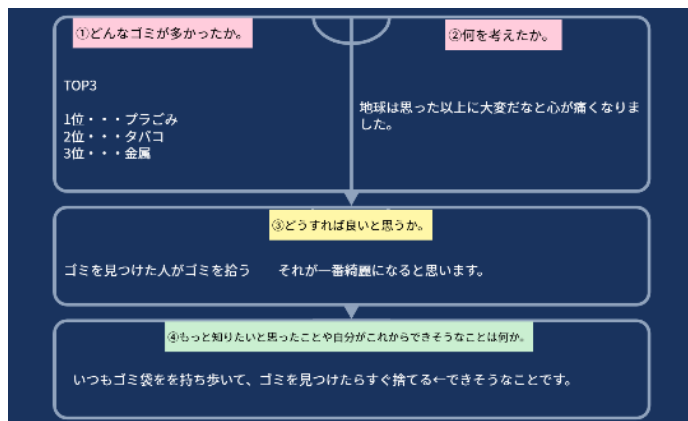
野外学習で宿泊地付近である宮津湾の生物の観察を行った。ウニの大量発生していることなどに気付き、地球温暖化との関係を疑う児童もいた。

●7月 情報の収集と分析



辺の道路、歩道などに落ちているゴミを集めたところ、約 30 分という短時間にもかかわらず、空き缶やペットボトル、包装ごみなど複数のゴミが見つかった。調査を通して、自然豊かな地域であってもゴミの問題が身近に存在していることに気付き、環境保全への関心を高めるきっかけとなった。

本校が位置する東別院町は、山々や東掛川に囲まれた自然豊かな地域である。しかし、本当に自分たちの身の回りの環境はきれいなのだろうかという疑問をもち、その実態を確かめるために学校周辺のゴミ拾い調査を行った。児童 6 名が校舎内外や学校周



集めたゴミを種類ごとに分類し、それぞれの特徴や量について確認した。その後、ロイノート・スクールの思考ツールを活用して、どのような場所にゴミが多く落ちていたのか、なぜゴミが捨てられてしまうのかについて考えを整理した。さらに、このままゴミが増え続けると地域環境にどのような影響があるのかを話し合うとともに、自分たちにできる対策について意見を出し合った。整理した内容を可視化することで、課題の原因や解決策を多面的に捉えることができ、今後の探究活動の方向性を明確にすることができた。

●7月 東掛川調査

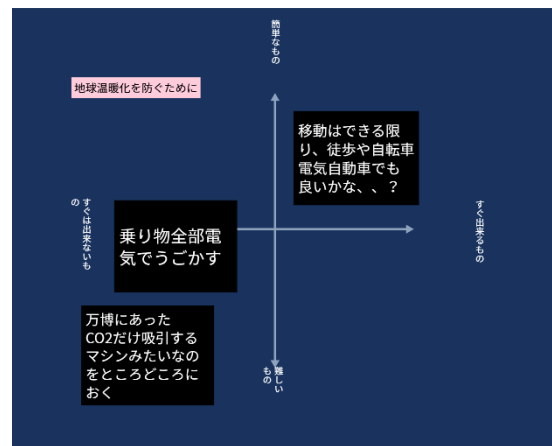
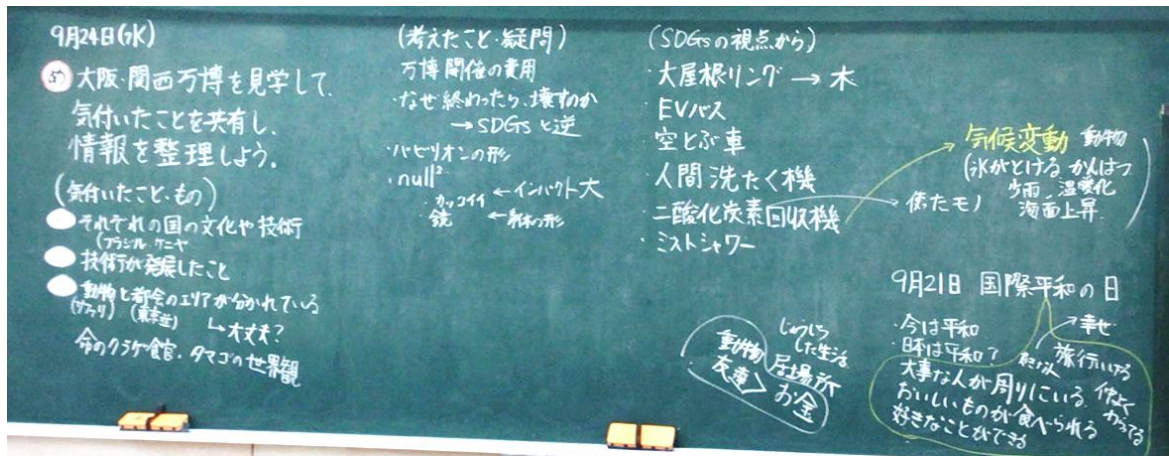
学校のすぐそばを流れる東掛川の調査を行った。この川では、PTAや漁業協同組合の方などを中心としたアユつかみ体験会が毎年開かれている。子ども達は、川に入る経験や生き物を見つける経験はしているが、この川が本当にきれいなのであろうかという新たな問いが生まれた。そこで、京都府南丹保健所環境政策課の専門家をお招きし、東掛川の水生生物調査を行った。生き物の採集と分類から、この川の水質等級がわかり、子ども達にとってより説得力のある情報を得ることができていた。また、パックテストの実演もあり、科学的な水質の状況についても学ぶことができた。



●9月 学びを動画にまとめ世界に発信

ここまでの学びを動画にまとめた。児童は、一人一台端末の動画編集ツールを活用して共同編集により、それぞれが撮影した動画をつなぎ合わせたり文字を入力したり、音声を吹き込んだりしながら編集作業を進めていった。技術的側面だけではなく、どうすれば視聴者に今の環境問題についてよりよく伝わるか、また自分たちは何ができるかを対話によって明らかにしながら制作している様子が印象的であった。

●10月 大阪・関西万博見学と情報の整理



●11月 環境会議2025 (学習発表会)



大阪・関西万博を見学し、「いのち輝く未来社会のデザイン」のために今と未来を見つめながら、実物を見たり触ったり、先進技術を学んだ。これまでに集めた情報を思考ツールで分類し、学習発表会では環境会議と題した劇を創作し、全校児童や保護者、地域の方へ向け学びと児童の主張を発信することができた。

●12月 森林体験学習



地元 NPO である東別院ふれあい道場の皆さんの協力の下、毎年学校近くの山林で森林体験学習を行っている。森林の働き等を社会科の学習で学んだ後、実際に森林に入り、樹木の枝打ち体験や間伐の見学、のこぎりの体験などをして林業に携わる人々の工夫や努力について触れる貴重な機会である。東別院町の森も伐採適齢期を過ぎた場所があり、今後数年にかけて増加していく傾向であることを教えていただき、森林保全の大切さに気づいていた。また、森林が水資源の確保や土砂災害の防止、生物のすみかとして重要な役割を果たしていることについても理解を深めることができた。地域の自然環境を守り、次世代へ引き

継ぐことの大切さについて考える機会となった。



●12月 製材所見学

学校近くの製材所に行き、環境に配慮した家づくりや製材方法、木材を超低温で乾燥させる方法などを見学した。木材を使うことが二酸化炭素を閉じ込めるといふことや森林が身体に及ぼす効果など、実体験を通して広く教えていただくことができ、子どもたちも木の香りを楽しんでいた。

●1月 他校との交流

京都府教育委員会が主催する「きょうと明日へのチャレンジコンテスト」で、京都府内の他地域の5年生に対し、これまでの学びについてオンラインで交流を行った。自分たちの課題探究を進め、他校の児童から質問や感想をもらうことで新たな視点や気づきを受けることができた。また、自分たちでは当たり前だと思っていた考えや取組を見直す機会となり、課題の捉え方や今後の探究の方向性について考えを深めることができた。相手校の取組からも多くの学びを得ることができた。

2026年度 活動の概要

環境学習のタスキをつなぎ、新たな視点で探究する新5年生6名は、4月から新たな環境学習に取り組んでいる。昨年度までの取組を継承しつつも、子ども達から生まれた問いや疑問を大切にしながら、総合的な学習の時間を中心にESD実践を行っている。7月に実施した東掛川調査では、水生生物の観察に加え、運動場や川周辺で見られる野鳥についても調査した。身近な自然に目を向けることで、学校周辺の環境の豊かさを再認識している。また、亀岡市環境政策課環境プロモーションセンターと連携した学校備品のアップサイクル学習にも取り組んでいる。現在はリサイクルとの違いや環境への効果について調べるとともに、東別院小学校全員で取り組める環境アクションについて検討している。

さらに、「なぜこの地域には多くの生き物が生息しているのか」「自然環境を未来につなぐために自分たちにできることは何か」といった新たな問いも生まれている。子どもたちは観察や聞き取り、資料調べを通して根拠をもって考え、仲間との対話を通して学びを深めている。また、学んだことを全校児童や地域へ発信する方法についても話し合いを進めており、持続可能な社会の担い手としての自覚を育みつつある。このような学習は、環境・社会・経済のつながりを多面的に捉え、課題解決に向けて主体的に行動する力を育むESDの実践につながっている。また、ふるさと東別院の豊かな自然や地域の人々との関わりの中で、自分たちの暮らしや地域の価値を再発見することは、児童一人一人の自己有用感や地域への愛着を高めることにもつながる。子どもたちは仲間と協働しながらよりよい未来を創造しようとする学びを通して、自分自身と地域社会のウェルビーイングの実現について考えを深めようとしている。

